

金剛組 大槻 純一郎氏

飛鳥時代の西暦578年に創業し、1400年超の歴史を持つ金剛組。百済(くんだり)から技師として日本に渡り、聖徳太子の命を受けて大阪・四天王寺の建立に携わった金剛重光を源流とする「世界最古」の企業の社長に、大槻純一郎氏が就任した。部署の垣根を越えた「総力戦」をキーワードに、伝統ある組織のマネジメントを図る大槻社長に、現状の課題や経営方針、展望などを聞いた。



抱負は

「大変長い社歴を持つ金剛組のかじ取り役を引き継ぎ、身の引き締まる思いだ。会社の歴史は長いが、自分にとってはここがスタート。まだまだ学ばなければならぬことも多く、諸先輩方や社員、またご愛顧いただいているお客

新 社長 Interview

「総力戦」で歴史を紡ぐ

さまにもご教示を賜りながら、当社の歴史を、さらに先へ紡いでいきたい。長年積み

「当社を取り巻く環境は厳しい。近年は社寺新築・改修の財源となる浄財が集まりにくくなっている。当社自身も24年問題や、職場環境・処遇のさらなる改善、受注と生産のバランス強化、そして、宮大工の育成など、多くの課題を抱えている」

——24年問題の対応は「お客さまのニーズにはし

の部門が垣根を越えて、一体となって課題解決する姿勢が大事だと考える」

「特に、現場で活躍してもらおう担い手の育成が最重要課題。厳しい環境下でも、ご住職さまや宮司さまとしっかり相談し、『さすがは金剛組』と言っていただけの人材育成に、中長期的な視点を持って注力する必要がある。またお

重ねてきた社寺建築の技術を、後世にしっかりと伝えていくのも当社の社会的使命の一つと考えている」

——会社の現状について「一般建築を多く手掛けた時期もあったが、2006年に高松グループの一員として再スタートして以降、今は社寺建築専業で展開している」

——今後の経営方針は「私の経営のキーワードは『総力戦』だ。社員が力を結集し、受注、生産、管理全て

——BIMなどの新技術の導入は「今後も伝統工法と最新技術の融合を図り日々精進する

が、金剛組らしさが損なわれることはやるべきではない。そのことを中心に据えながら、合理化、省力化を図っていききたい」

（おおつき・じゅんいちろう）

1989年3月関西大経済学部卒後、同年4月富士銀行（現みずほ銀行）入行、2017年4月みずほ銀行名古屋中央支店長、20年6月高松建設に出向、同年10月高松建設入社、同年12月本社管理副本部長、21年4月執行役員本社管理副本部長を経て、4月1日から現職。大阪府出身。66年12月28日生まれ。57歳。

記者の目

「組織は、パスルのようなもの。社員それぞれに得手不得手があり、互いのデコボコがかみ合ったとき、組織として強固なものになるのが理想」と語る。社員には「社内」で起こったことは、全て自分に関係することと捉え、自分には何ができるのかを考えられる人間になってほしい」と期待を寄せる。趣味はゴルフ。大切にしている言葉は「言葉で語るな、心で語れ(心戒十訓)」。

